

笑顔いっぱい 清里っ子

学校便り 第4号

もりやま まさのり
文責 森山 資典

元気な笑顔が学校に帰ってきました。

9月1日(木)、子どもたちの元気な笑顔が、学校に帰ってきました。新型コロナウイルス感染防止のために、子どもたちは各教室に分かれてリモートによる夏休み明け集会を行い、前期後半が始まりました。3年連続のコロナ禍での夏休みで、自粛や感染防止等のために制限された夏休みでしたが、子どもたちは、多様に過ごしてきたと思います。平和学習や、家族や先祖に感謝して、命を授かり、受け継いでいることを実感できたでしょうか。夏休みだからこそできる学習ができたならとてもうれしいです。久しぶりに学校へ登校して、それぞれの夏休みの思い出を話し合っていました。校長の話として、82名全児童が命に関わる事故や病気、けがをすることなく無事に夏休みを過ごせたことが一番うれしいと伝えました。「みんな、笑顔で登校できましたか。」と尋ねると、「はい」と返事が返ってきましたが、沈黙した子どももいました。まだまだ、みんなが笑顔で登校できる清里小には、なれていないようです。ひき続き「**自分の命は自分で守る 人の命はみんなを守る**」の合い言葉で子どもたちの命を守り、一人ひとりの自己実現を果たすための学力と人とつながる力を育み、前期の終業式には全員が、笑顔の登校ができるようにチーム清里小で尽力していきます。

通学路の清掃作業ありがとうございました。

8月28日(日)、清里校区地区協議会の方々が、子どもたちの通学路の除草や清掃活動をしてくださいました。右の写真は、清掃後の子どもたちの通学路の様子です。写真は、ごく一部で、通学路を長く広い範囲で清掃していただいています。清掃前は、子どもたちが登下校するのに、草が生い茂って邪魔する等危険なところもありました。また、歩道が泥などで埋もれていたり、心ない人たちが捨てるゴミが散乱していたりしていました。時々、防犯のために子どもたちの下校について帰ることがあるのですが、生い茂る草に危険を感じたり、むやみに捨てられているゴミに憤慨したりしていました。清里校区地区協議会の方々ののおかげで、通学路がきれいになり、子どもたちが安心して登下校することができます。日頃から感じるのですが、清里校区のみなさんが、本校の子どもたちに愛情をもって見守り、育てていただいていること、清里小学校をたいせつにいただいていることを強く感じます。ほんとうに尊く、有り難いことです。心から感謝します。

牛水方面の通学路



水島方面の通学路



高浜方面の通学路



あさがおの会のみなさんありがとうございます。

正門前の花壇



正門の花壇に優しい花が咲いています。春にあさがおの会のみなさんが植えていただいたサルビアとポーチュラカが酷暑にも負けずに咲いています。夏休み中も毎日のように水かけをしていただきました。おかげさまで、花たちが、毎日、子どもたちを優しく迎えてくれています。子どもたちの心に、あさがおの会のみなさんの優しさが届いています。ほんとうにありがとうございます。

西川健一先生ありがとうございました。

新型コロナウイルスの感染防止のための作業や下校時の子どもたちの見守り、学校の教育環境を整える業務等をスクールサポートスタッフ(SSS)として一昨年度から担っていただいた西川先生が、8月末日をもって辞められました。清里小の子どもたちや学校に対する愛情がとても深く、献身的に業務をしていただきました。気持ちは、まだ続けたいと言われてていましたが、ご自身の足の状態が悪く、子どもたちや学校に迷惑をかけたくないと決断で、お辞めになりました。夏休み明け集会で、リモートによる辞任のご挨拶をしていただきました。子どもたちからとても好かれていらっしゃいました。私たち職員もたいへんお世話になりました。お辞めになるのはとても寂しいですが、まだまだこれからの人生を健康で、楽しく過ごしていただきたいと思います。西川健一先生ほんとうにありがとうございました。

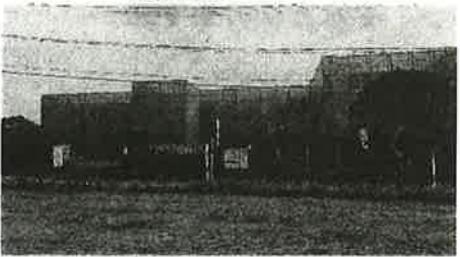


リモートでの辞任のご挨拶

校舎の外壁改修と屋上防水工事が進んでいます。



現在の運動場からの校舎



ご存じの通り、6月8日から9月末日までの予定で校舎の外壁改修と屋上防水工事が行われています。授業や行事等の子どもたちの学習にできるだけ配慮して行われています。4年生の教室や二階の廊下天板、音楽室の壁などが、雨漏りや横雨等で傷みがひどく、屋上の防水工事は喫緊の課題でした。また、校舎の外壁もかなり改修が必要でした。現在、校舎は、工事のための足場やシートで覆われていて息苦しさも感じますが、順調に進んでいます。外壁の色は、白から優しいメロン色(子どもたちがそう言っています。)に変わります。少しずつ塗り替えられた校舎が見えてきました。塗りかわる優しい色のように、本校の子どもたちが、ますます優しくなって、幸せになってほしいと思います。他校の先生方から、本校の子どもたちは、落ち着いていて優しいと誉められます。うれしいです。優しさは、内に強さを秘めていると思います。他者に優しくできるには、心が揺さぶられても動じない強さが必要だと思います。校舎の外壁の優しいメロン色と本校の子どもたちの優しさがマッチする清里小学校になれるようにみんなで学び合い育ち合っていきます。

9月8日は、国際識字デーでした。 ～ 私の学びから ～

1965年9月8日に、イランの首都テヘランで開催された世界教育相会議でイランの国王が、各国の軍事費1日分を識字教育に回すことを提案しました。そして、国連のユネスコが制定したそうです。私は先日、「灯としての教育～自主夜間中学から公立夜間中学へのあゆみ～」と題した講演を聴きました。その中で、2020年の国勢調査で、全国の未就学者(幼児ではない人)が94455人、義務教育未終了者(中学校を卒業していない社会人)が898748人、合計すると993203人が、義務教育を終えずに社会人として生活していることが報告されました。現在、日本には非識字者(文字の読み書きができない人)が、国全体の約1%いると言われていています。その人たちのほとんどは、小学校で文字を学ばずに生きてきたことになると思います。中でも、太平洋戦争前や戦中、戦後の混乱期に生まれ、貧困や差別によって学校に行けなかった人びとは、私たちが当たり前のように使っている文字の読み書きができません。文字を奪われて生きてきた人たちです。私の祖母も非識字者でした。祖母は、明治生まれでした。非識字者であるために多くの苦労や困難な生活を強いられて今まで生きてこられています。その中の高齢の女性が、還暦を過ぎて文字を学ばれはじめて、一つ一つの文字や言葉を獲得されました。「文字の読み書きができてとてもうれしい」とよく話されていたそうです。学校教育の大切さと学ぶことの意義を子どもたちと確かめ合い、毎日の学習に励んでいきたいと思っています。